

JR連合「第10回安全シンポジウム」 JRグループ全体の安全確立にむけて

JR連合は、安全最優先の意識を浸透・共有化する目的で5月10日、ホテルグランヴィア広島に於いて「第10回安全シンポジウム」を開催し、全国から組合員や来賓など約300名が集った。イーストユニオンからは、菅野中央執行委員長他6名の組合員が参加した。



冒頭の黙祷で始まったシンポジウムは、松岡JR連合会長から、福知山線列車事故をはじめとする重大事故やさまざまな事象と、そこから得た教訓を決して風化させることなく、安全最優先の意識を浸透・共有化しよう。そしてJR各社をはじめグループ会社や協力会社を含めた「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」という目標の達成にむけて、他産業や現場の事例を学び、すべてのJR関係労働者の幸せの実現にむけて、着実に行動していくといった挨拶があった。

事故防止は「事故後の対策」から「事故の未然防止」へ ヒューマンエラーにしっかりと向き合い、組織の枠を超えた職場の安全に取り組もう

第1部は、河合篤西日本旅客鉄道株式会社 安全研究所所長より「ヒューマンエラーを減らすために～ヒトの特性とヒューマンエラー～」について基調講演を頂いた。第2部は、加盟組合3単組から取り組みの報告がなされ、第3部では、「ヒューマンエラーにどのように向き合っていくか」をテーマに、労働科学研究所 酒井所長、航空連合 内藤事務局長、JR西日本 岸本安全推進部担当室長と、加盟単組代表3名がパネラーとなり、パネルディスカッションが行われた。

ディスカッションでは、安全とは、お客様の安全であり、そのためには働く人の安全が大切であること。過労に追い込まれる状況と過度の疲労状態が一緒になるとミスが起こりやすいこと。また、組織の壁（権威勾配・本社と支社、支社と現場・発注元と元受と下請け）の問題や、のぞみ34号台車事故についても触れられ、確認しあうことの大切さなどが議論された。そして、人でしか担えない安全が有るとして、安全のABC（A当たり前のことを、Bぼんやりしないで、Cちゃんとする）などが紹介された。

事故の教訓を胸に、安全を最優先課題に取り組みを進めます！